

| ステップ | 運 転 操 作 | 参 考 事 項 | 備 考 |
|------|--|---|--|
| | <p>3. RCIC系を起動する。 (1) RCIC系隔離を解除する。 (2) RCICタービンをリセットする。 (3) RCIC系を起動する。 #7 #9前ページ参照 S/P水位高又は, CST水位低の信号が発生した場合, RCIC系の吸込弁の切替を行う。 a. RCIC系 S/P 側吸込隔離弁 [MO-13-39, 41] を「開」する。 b. RCIC系 CST 側吸込弁 [MO-13-18] 「閉」確認。</p> <p>4. CSを起動する。 (1) CS-A系を起動する。 (2) CS-B系を起動する。</p> <p>5. LPCIを起動する。 (1) LPCI-A系を起動する。 (2) LPCI-B系を起動する。</p> <p>6. MUW系 (復水) _____ (補1) _____ RHR (B)系代替注水系を使用する場合 (1) RHR (B)系から注入ラインに注水が可能であることを確認する。 a. RHR 注入弁 [MO-10-25B, 27B] 「全開」 b. 格納容器スプレイ弁 [MO-10-26B, 31B] 「全閉」 c. 原子炉ヘッドスプレイ弁 [MO-10-32, 33] 「全閉」 d. 格納容器スプレイ弁 [MO-10-39B] 「全閉」 e. ポンプ吐出連絡弁 [MO-10-20] 「全閉」 f. FP-MUW 連絡第二弁 [MO-79-1251] 「全閉」 (2) 復水移送ポンプの予備機を追加起動して, 2台運転にする。 a. 予備機 CS 「入」位置 (3) RPV/PCV 注入ライン流量調節弁 [MO-10-111]を開にして注水流量が D/W 代替注水流量計 (FI-57-103)にて出ることを確認する。</p> <p>7. MUW系 (復水) RHR, CS の洗浄水ラインを使用する場合 (1) 下記の ECCS系の注入ラインのうち注入可能なラインの洗浄水弁を「開」する。 a. RHR-A系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255A]</p> | <p>(補1) MUW系 (復水) は RHR (B)系の代替注水ラインを用いるか RHR, CS の洗浄ラインを用いる。</p> <p>(R/B IFL パーソナルエアロック室上)</p> | <p>参考資料 (参考-5) 図 2</p> |

| ステップ | 運 転 操 作 | 参 考 事 項 | 備 考 |
|------|---|--|------------------------------|
| | <p>b. RHR-B系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255B]</p> <p>c. CS系充水加圧 PCV バイパス弁 [V-79-751]</p> <p>(2) 復水移送ポンプの予備機を追加起動して、2台運転にする。</p> <p>a. 予備機 CS「入」位置</p> <p>(3) 現場の各洗浄水弁「開」を確認し、各注入弁のCSを「開」とする。</p> <p>a. LPCI-A 注入弁 [MO-10-25A]</p> <p>b. LPCI-B 注入弁 [MO-10-25B]</p> <p>c. CS(A)系注入弁 [MO-14-12A] (補2)</p> <p>d. CS(B)系注入弁 [MO-14-12B]</p> <p>8. 消火系 (RHR(B)系より注水)</p> <p>(1) RHR(B)系から注入ラインに注水が可能であることを確認する。</p> <p>a. RHR 注入弁 [MO-10-25B, 27B] 「全開」</p> <p>b. 格納容器スプレイ弁 [MO-10-26B, 31B] 「全開」</p> <p>c. 原子炉ヘッドスプレイ弁 [MO-10-32, 33] 「全開」</p> <p>d. 格納容器スプレイ弁 [MO-10-39B] 「全開」</p> <p>e. ポンプ吐出連絡弁 [MO-10-20] 「全開」</p> <p>f. FP-MUW 連絡第二弁 [MO-79-1251] 「全開」</p> <p>(2) 電動駆動消火ポンプあるいはディーゼル消火ポンプを起動する。</p> <p>(3) MUW-FP 連絡弁を「全開」にする。</p> <p>a. FP-MUW 連絡第一弁 [MO-79-1250]</p> <p>b. FP-MUW 連絡第二弁 [MO-79-1251]</p> <p>(4) RPV/PCV 注入ライン流量調節弁 [MO-10-111]を開にして注水流量が D/W 代替注水流量計 (FI-57-103)にて出ることを確認する。</p> <p>9. CRD 系</p> <p>(1) CRD ポンプを1台以上を運転、又は運転中を確認する。</p> <p>(2) CRD 駆動水流量調節弁 [FCV-3-19A, B]を手動にて「全開」する。</p> <p>(3) CRD 駆動水圧力調節弁 [MO-3-20]を「全開」する。</p> | <p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 2FL 東側)</p> <p>(補2)CS系開不能の場合、第2注入弁 [MO-14-11A, B]の開確認後下記ジャンパーをし第1注入弁 [MO-14-12A, B]を開する。</p> <p>(12A) RE57 Y02(25)ヶ〜(16)シ</p> <p>(12B) RE59 Y02(25)ヶ〜(16)シ</p> | <p>参考資料 参考 5 図 3</p> |

| ステップ | 運 転 操 作 | 参 考 事 項 | 備 考 |
|--------|---|--|--|
| | <p>10. SLC系 (補3)</p> <p>(1) SLCタンク出口弁[V-11-11]を「全開」する。</p> <p>(2) SLCポンプ吸込ライン純水入口弁[V-11-24]を「全開」する。</p> <p>(3) SLCポンプ起動キースイッチを「ポンプA」又は「ポンプB」位置としSLC系を起動する。</p> <p>a. 潤滑油ポンプの起動を確認する。</p> <p>b. SLCポンプの起動を確認する。</p> <p>c. 「ほう酸水注入中」赤ランプ点灯及び「ほう酸水注入弁起爆回路断線」警報発生を確認する。</p> <p>(4) CUW系隔離を確認する。</p> <p>(5) SLCポンプ吐出圧力及びタンクレベルを確認する。</p> <p>11. 消火系 (給水系より注水)</p> <p>(1) 消火系～給水ヘッダー連絡メガネフランジを「通水側」にする。</p> <p>(2) 消火系～給水ヘッダー連絡弁を「開」する。</p> <p>a. 消火系～給水ヘッダー連絡ラインドレン弁[V-32-123-1, 123-2]の「閉」を確認する。</p> <p>b. 消火系～給水ヘッダー連絡弁[V77-40, V-32-107-1, 107-2]を「開」する。</p> <p>12. RHR海水系 (補4)</p> <p>(1) RHRS-RHR連絡メガネフランジを通水側にする。</p> <p>(2) RHRSポンプ(B)又は(D)起動 (補5)</p> <p>(3) RHRS-RHR連絡弁を開する。</p> <p>a. 格納容器海水浸水連絡ラインブロー弁[V-10-289, 390]の「閉」を確認する。 (屋外主変圧器脇)</p> <p>b. 格納容器海水浸水連絡弁[V-10-285, 522]「開」する。(屋外主変圧器脇)</p> <p>(4) RHR第一注入弁(LPCI)[MO-10-25A(B)]を全開する。</p> | <p>(補3)テストタンク使用の場合も、テストタンク出口弁開前にSLCタンク出口弁を閉にすること。</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(補4)RHR海水系による海水注入は、緊急時対策本部(TSC)相談の上実施する。 (序-2-1参照)</p> <p>(補5)RHRSポンプが起動できない場合でも原子炉圧力が低い場合は注水ラインを構成すればろ過水タンクの水頭圧差により雑用水系から原子炉へ注水することができる。</p> | <p>参考資料 (参考5) (図4)</p> <p>参考資料 (参考5) (図5)</p> <p>参考資料 (参考5) (図3)</p> |
| ES/I-5 | 原子炉水位がTAF[-4172mm(有効燃料頂部)]を回復したら[水位確保](RC/L)へ移行する。 | | |
| ES/I-6 | 原子炉水位がTAF[-4172mm(有効燃料頂部)]に回復しない場合には、格納容器内γ線線量率を監視し、格納容器内γ線線量率が「SOP対象領域」に達した場合には、SOPへ移行する。 | | 制限図 (図C-6) |